



陳言コラム-21

中国雑談

### 百点とれた今年の春節夕べ

きたる2月22日は元宵節で、この晩の団子を食べて、翌朝から実家を離れて仕事場の地方へ出かける人は中国には無数いるだろう。またこの晩のテレビ夕べ(元宵節晩会)を多くの家庭では家族そろって見、大晦日の春節夕べ(春節晩会)の余韻として楽しんでから春節もこれで終わる。

ただし、今年の春節晩会を見て、元宵節晩会を楽しみにしている人はあまり多くないだろうと思う。ほとんどの駐在員の皆さんは帰国中で春節夕べを見ていないと思うが、中にはこんな出し物もあった。

「あなたもわたしも中国の夢、全面的に小康を打ち立てよう」

「一带一路の幕は切って降ろされた」

「復興が実現し、前途はさらに洋々としている」

それらををみて、つぶやきをミニブログに発信する人が多くいた。中には「わたくしの三十余年間の人生で最高の全国テレビニュースを見た。いつもの無味乾燥なアナウンスと映像表現を廃し、歌曲と舞踊、漫才落語、VTRなどを一体化させた逸品…」と書いた人がいた。

これは褒めることばだろうか。ほかにもいろんなコメントが殺到するなか、呂逸濤・番組ディレクターは春節の翌日にメディアの取材を受けた。自信満々に発言した。

「番組の出来は百点だった」

「満足できる回答を出すことができた」



それもそうだろう。春節1日(2月8日)の『人民日報』や『光明日報』は長文の論説で「春節の夕べ」がいかに成功したか、いかに視聴者の好評を博したかを伝えていた。ディレクターもずいぶん勇気が付けられただろう。

ただし、民間世論はそうでもないようだ。著名な金融ライターの葉檀氏は、呂逸濤ディレクターの発言について、日経が買収した『フィナンシャル・タイムズ』傘下の中国語ネットメディア『FT 中文網』にエッセーを寄せ、「これはあの独占的な地位を誇示する国営企業の体質となんと似ていることか…。億万の人たちの需要を無視してもなお厚顔に生き活きとして、とんでもない『英雄』気取りである!」と批判した。葉檀氏はさらに吐き捨てるように「キラキラ豪華に輝いても、ゴミはゴミにすぎない」と書き続けた。

これからの元宵節晩会は、きっとテレビ局が新浪微博で開設している公式アカウントには、番組放映時間中の書き込み機能を閉鎖し、番組担当ディレクターの実名で開いている微博アカウントの書き込み機能を遮断するだろう。

「春節の夕べを最後まで見れば、新しい年に越えられない苦痛はない、だって!」とあつ人はつぶやいた。一千点満点の場合、春節夕べはよくも百点取れたではないか。今度の元宵節晩会は間違いなく百点以上は取れるはずだと思われる。